

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所ごうていんぐ岩せヶ原		公表日		令和8年3月2日	
		%		%		回収率 100%	
		チェック項目		はい		いいえ	
				工夫している点		課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100				個々の状況に考慮し、室内及び室外を有効的に活用するようにしていきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	80	20	職員が少ないと思う。 *年度途中での利用者増に伴い、職員を急募したが、採用にいたらず。	⇒R8年度は職員数の大幅増を予定している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100			個々の状況に応じた配慮等をさらに深めていきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100			個々の状況に応じた配慮等をさらに深めていきたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100		対応する職員配置によって考慮するようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100		年度当初の職員会にて毎回確認し、年、半期、月、週、日の単位で振り返るように心がけている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100			対面式で実施できる機会を考慮していきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		常に実施している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100		第三者評価を受審し、課題について、じっくり、改善中である。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100		内部研修として月1の職員研修の実施、年数別の外部研修、法定研修、個々の希望する研修等を行なっている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100		個別支援計画及びHP上にて公開している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100		入所時に静岡サポートファイルの一部提出を求め、事業所内にて実態把握を実施し、個別支援計画に反映している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100		入所時には児発管が中心となり計画立案し、その後は、現場指導員による実践を通して、全職員が議論しつつ、計画を立案し、児発管及び管理者が最終チェックを行なっている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100		週末における業務日誌及び個別日誌等のチェックに基づき、支援内容の見直し等を実施、全指導員で共有するようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100		「子どもの発達と診断」に基づき、発達分析を実施しつつ、実践の中での指導員の気づきを加えながら、本人の全体像を捉えるようにしている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100		本人及び家族支援については常に実施し、移行支援はその時々、地域支援・地域連携については計画的に実施している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100		プログラム案は基本的には個人案であって、その案を全指導員で議論しつつ、内容を深めていくようにしている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100		静・動と組み合わせ、個に合ったプログラムを常に考えて実行している。		

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100		実践については、個別活動と集団活動を適宜組織し、個への配慮をしつつ進められるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100		新たなプログラムについては細心の打ち合わせが必須であり、継続的な取り組みであっても再確認のためのチェックをするように心がけている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	80	20	気付いたときの情報の共有ができています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100		記録については、「書く」ことよりも、むしろ「読む」ことを重視している。「書く」ことは当然であり、ただ書くことで業務が終結することのないように戒めている。	
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100		定期的なふりかえりは、年、半期、月、週、日に単位で実施している。振り返りの基本は具体的改善策を講ずることと考え、特に5W1Hを明確にするように徹底している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100		基本的な生活習慣の安定を図る取り組み、労働意欲の向上を図る取り組み、創造的思考を高める取り組みの中に網羅するように計画している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100		基本的には常に選択できるような配慮をしつつも、大人として望む気持ちも入れつつ、単純に選択することのないよう心がけている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100		子どもの状況を把握することは全指導員が果たすべきことであり、誰もが関係機関等と連携できるように取り組んでいる。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100		状況に応じて、すぐに対応できるように心がけている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100		連絡調整等を密に行うように努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100		個別支援計画導入の根拠は「各ステージごとの引継ぎがスムーズに実施できる」ためであるが、まだまだ、各部署ごとに、引継ぎとしての資料等を通して情報共有することは浸透しきれていない。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100		当然なされるべきことであるが、事業所によつての温度差は否めない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100		必要によって対応している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100		児童クラブとの交流については今年は少なかったが継続している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	80	20	定期的な会合等には参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100		通所時における連絡帳やおたより、個別面談等で共通理解を図るようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100		必要に応じて考慮している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100		契約等の話し合い時に実施している。時間的な制約もあるので、常に疑問や質問等は受け付けるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100		当然のこととして実施している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100		必ず同意を得るようにしている。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		常に相談に応じられる体制を取っている。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだいで交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100		学校をはじめ、デイの指導員が交流できるようにしている。 子どもたちと保護者がともに参加できるような行事等を企画していきたい。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100		虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、第三者委員会等々で適切に対応できる体制を組織している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100		各部報告としてのHP上の情報発信、紙媒体での周知、らくらく連絡網等のお知らせなど、様々なツールを用いて実施している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100		十分に配慮している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100		情報ツール等については事前に確認後実施するように心がけている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100		事業所におけるイベントや常時開設しているカフェ（就労継続支援B型における営業）などを通して地域との関係を大切にしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100		常に更新していくように心がけている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100		常に更新していくように心がけている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100		業務分担任である保健担当が中心となり資料収集、研修、実地訓練等を実施している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100		静岡サポートファイルに記載された事項に基づき、配慮するようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100		事故防止の観点から、ヒヤリハットや月1回の業務改善チェックを通して、毎月、虐待防止委員会を中心に具体的改善等を提起するようにしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100			送迎車両における安全確保、取り組みにおける安全確保等家族等への周知等を徹底していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100		ヒヤリハットについては事業所内に一定期間掲示し、保護者へも閲覧できるようにしている。再発防止についてはそのつど具体的改善策を講じている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100		虐待防止については、新規採用者に対しては初任者研修で、継続職員に対しては、年度当初の職員会にてポイントをか再確認し、なおかつ、虐待防止委員会による研修等を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100		対象となる子ども及び仲間に対しては、保護者へ十分に説明を行ない、個別支援計画において確認、署名、捺印をもらっている。		